



2022年5月11日

各位

会社名 ヤマハ株式会社
代表者名 代表執行役社長 中田 卓也
(コード番号7951 東証プライム)
問合せ先 コーポレート・コミュニケーション部長 杉山 啓子
(TEL 053-460-2210)

2022年3月期 決算の概要と2023年3月期 業績予想について[IFRS]

□ 2022年3月期 決算の概要 — 増収・増益 —

半導体調達難および物流の混乱などによる商品供給不足が継続したものの、新型コロナウイルス感染拡大による影響からの回復が進んだことで、2022年3月期の売上収益は、前期に対し356億円(9.5%)増加の4,082億円となりました。事業利益は、売上収益の増加により前期に対し23億円(5.7%)増加の430億円となりました。また、親会社の所有者に帰属する当期利益は、前期に対し106億円(40.0%)増加の373億円となりました。

<事業セグメント別の売上収益・損益の状況>

● **楽器事業**

売上収益 2,762億円(前期比 15.6%増) 事業利益 373億円(前期比 15.1%増)

音源LSIなどの半導体調達難および物流の混乱などによる商品供給不足が継続したものの、市況の回復に伴い、全ての商品で増収となりました。地域別でも全ての地域で増収となりました。

セグメント全体の売上収益は、前期に対し372億円の増収となりました。事業利益は、49億円の増益となりました。

● **音響機器事業**

売上収益 969億円(前期比 6.6%減) 事業利益 15億円(前期比 78.3%減)

半導体調達難の影響を大きく受けたオーディオ機器とICT機器は、減収となりました。業務用音響機器は、需要の回復傾向により増収となりました。

セグメント全体の売上収益は、前期に対し69億円の減収となりました。事業利益は、55億円の減益となりました。

● **部品・装置、その他の事業**

売上収益 351億円(前期比 17.7%増) 事業利益 42億円(前期比 239.2%増)

電子デバイス、自動車用内装部品は、市況の回復により増収となりましたが、FA機器は、減収となりました。

セグメント全体の売上収益は、前期に対し53億円の増収となりました。事業利益は、29億円の増益となりました。

□ 2023年3月期業績予想 — 市況・供給状況改善を織り込み、増収・増益を予想 —

半導体調達難などによる商品供給不足が継続しておりますが、楽器事業を中心とした市況、ならびに商品供給状況の改善を考慮して、2023年3月期の通期業績予想は、売上収益4,400億円（前期比7.8%増）、事業利益500億円（前期比16.2%増）、親会社の所有者に帰属する当期利益375億円（前期比0.7%増）といたします。

なお、本予想における想定為替レートは、対USドル115円、対ユーロ130円です。

注1) 事業利益とは、売上総利益から販売費及び一般管理費を控除して算出した日本基準の営業利益に相当するものです。

注2) 文章中の売上収益、損益の数値は、原則として億円未満四捨五入で記載しております。

以上

2022年3月期業績資料 <IFRS>

ヤマハ株式会社
2022年5月11日

(1) 主要財務指標

	前期実績	当期予想 (‘22/2/7発表)	当期実績	次期予想
	21年3月期	22年3月期	22年3月期	23年3月期
売上収益	3,726億円	3,950億円	4,082億円	4,400億円
うち国内	1,082億円 (29.0%)	1,029億円 (26.1%)	1,054億円 (25.8%)	1,081億円 (24.6%)
うち海外	2,644億円 (71.0%)	2,921億円 (73.9%)	3,028億円 (74.2%)	3,319億円 (75.4%)
事業利益 ^{(*)1}	407億円 (10.9%)	410億円 (10.4%)	430億円 (10.5%)	500億円 (11.4%)
営業利益	350億円 (9.4%)	465億円 (11.8%)	493億円 (12.1%)	500億円 (11.4%)
税引前利益	371億円 (10.0%)	480億円 (12.2%)	530億円 (13.0%)	520億円 (11.8%)
当期利益 ^{(*)2}	266億円 (7.1%)	350億円 (8.9%)	373億円 (9.1%)	375億円 (8.5%)
為替レート(決済レート) ^{(*)3}	106円/US\$ 121円/EUR	111円/US\$ 130円/EUR	112円/US\$ 131円/EUR	115円/US\$ 130円/EUR
ROE	7.4%	8.8%	9.2%	8.8%
ROA	5.2%	6.2%	6.5%	6.4%
1株当たり利益	151.4円	201.8円	214.8円	218.6円
設備投資額 (減価償却費)	113億円 (114億円)	170億円 (123億円)	148億円 (121億円)	256億円 (132億円)
研究開発費	242億円	245億円	240億円	265億円
(キャッシュフロー)				
営業活動	582億円	490億円	360億円	310億円
投資活動	△58億円	390億円	437億円	△210億円
フリーキャッシュフロー	524億円	880億円	797億円	100億円
期末在庫高	968億円	1,090億円	1,186億円	1,250億円
(要員数)				
国内	5,672人	5,600人	5,615人	5,700人
海外	14,349人	14,500人	14,280人	14,900人
正社員計 ^{(*)4}	20,021人	20,100人	19,895人	20,600人
正社員外要員(期中平均)	8,644人	9,000人	8,863人	8,300人
(事業別売上収益)				
楽器	2,390億円 (64.1%)	2,700億円 (68.3%)	2,762億円 (67.7%)	3,020億円 (68.7%)
音響機器	1,038億円 (27.9%)	900億円 (22.8%)	969億円 (23.7%)	1,000億円 (22.7%)
その他	298億円 (8.0%)	350億円 (8.9%)	351億円 (8.6%)	380億円 (8.6%)
(事業別事業利益 ^{(*)1})				
楽器	324億円	375億円	373億円	430億円
音響機器	71億円	0億円	15億円	30億円
その他	12億円	35億円	42億円	40億円

(2) 売上収益の内訳(事業別、地域別)

22年3月期 (‘21/4月-‘22/3月)	楽器		音響機器		その他		合計	
	売上収益	前期比 ^{(*)5}	売上収益	前期比 ^{(*)5}	売上収益	前期比 ^{(*)5}	売上収益	前期比 ^{(*)5}
日本	583億円	106%	287億円	84%	184億円	96%	1,054億円	97%
北米	604億円	116%	210億円	87%	60億円	127%	875億円	108%
欧州	533億円	110%	254億円	90%	6億円	131%	793億円	103%
中国	568億円	105%	70億円	89% (90%)	40億円	156%	678億円	106%
その他	473億円	108%	149億円	104%	61億円	179%	683億円	111%
合計	2,762億円	109%	969億円	89% (89%)	351億円	115%	4,082億円	104%

*1 事業利益とは、売上総利益から販売費及び一般管理費を控除して算出した日本基準の営業利益に相当するものです。

*2 当期利益＝親会社の所有者に帰属する当期利益

*3 為替レートは、利益に影響を及ぼすヤマハの輸出入決済レートを記載しています。

*4 要員数＝期末社員在籍数

*5 前期比は為替を除いた実質ベースでの比較、()内はOEM向けを除いた前期比増減を表しています。

連結業績予想は本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の連結業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。